

第26回写真の町東川賞決定!

創設なつた飛弾野数右衛門賞の

初回受賞に青森出身の故小島一郎氏

第26回写真の町東川賞の受賞者が決定しました。今年から「飛弾野数右衛門賞」を新たに創設。その栄えある第1回受賞者として、青森県出身の故小島一郎氏(1964(昭和39)年、享年39歳)が選ばれました。海外作家賞には陳敬寶(チン・パオチエン)氏(台湾・台北市在住)、国内作家賞は北島敬三氏(東京都都在住)、新人作家賞にオサム・ジエームス・中川氏(米国ブルーミントン市在住)、特別作家賞は萩原義弘氏(東京都都在住)がそれぞれ選ばれました。表彰式は7月31日(土)、農村環境改善センター、受賞写真家の皆さんが一堂に会する受賞作家フォーラムは8月1日(日)、文化ギャラリーで開く予定です。

世界各地で活躍する写真家のさまざまな活動に対して、その特徴的な活動振りに対する表彰を続けてきた「東川賞」は、今年創設以来満25年を迎えました。その節目となる今年、新たな四半世紀へのスタートとして表彰内容を大きく見直し充実することになりました。

その代表は、地域に根ざした写真活動をしてきた写真家を顕彰する「飛弾野数右衛門賞」の創設です。大正時代から半世紀にわたって本町の歴史をカメラ写真と映像フィルムで記録し続けたアマチュア写真家、故飛弾野数右衛門氏(2008(平成20)年12月、享年94歳)の精神を引き継ぐ

ため、地域に根ざした写真活動をする写真家を顕彰するものです。賞創設以来変わらなかった賞金の額は、今回の改正で海外作家賞、国内作家賞はともに100万円、新人作家賞、特別作家賞はともに50万円、新たな飛弾野数右衛門賞は50万円に引き上がり、写真家への顕彰として自他ともにふさ

わしい賞金額になりました。今まで「東川賞」として馴染み深かった名称は、今回から新たに「写真の町東川賞」と改称しました。以下、各賞の受賞者講評は東川賞審査会委員、佐藤時啓氏。



LauSong Project (廻返:老松計画) #6, 2009
©陳 敬寶 Chin-pao Chen



PLACES I, 2009
©北島敬三 Keizo Kitajima



From the Banta (崖) series #007, 2008
©ジエームス・オサム・中川 James Osamu Nakagawa



夕張定点観測 千代田地区の炭住街 1983年
©萩原義弘 Yoshio Hagiwara



つがる市木造 1958年
©小島一郎 Ichiro Kojima